

第7回 稲敷市事務事業評価 外部評価委員会

日時：令和3年3月17日（水）午前10時00分～

場所：稲敷市役所 312 会議室・市長室

発言者	発言内容
-----	------

1. 開会

課長	それでは、時間になりましたので、始めさせていただきます。 本日は、お忙しい中、お集まり頂き誠にありがとうございます。 只今より、稲敷市事務事業評価 外部評価委員会の市長報告会ということで、第7回会議を始めさせていただきます。 これまで6回に渡りご協議いただいた上、第6回の会議後も報告書の内容について精査いただき、修正等のご指摘・ご指導をいただきありがとうございました。 このあと、市長室の応接室へ移動し、今年度の外部評価委員会の報告書となります「令和2年度稲敷市事務事業評価見直しについて」を、付帯意見のご報告と合わせて、委員長から市長に手渡ししていただきます。その際、記念撮影をさせていただきます。その後に、市長から挨拶があり、副委員長からご講評・ご感想をいただきたいと思います。本日欠席の委員のご講評については、代読させていただきます。 その後、10時25分までご歓談いただきます。 以上で市長への報告が終わりまして、こちらの会議室へ戻り、今後の対応についてご連絡させていただきます。
----	--

2. 市長への報告（市長室へ移動）

課長	それでは、令和2年度稲敷市事務事業評価 外部評価委員会において、今年度の協議内容をとりまとめた報告書が出来上がって参りましたので、委員の皆様から市長へ報告書をお渡しさせていただきます。
事務局	報告はお時間をいただきたいので、座ったままでご報告させていただきます。写真撮影の際に、移動して写真を撮らせていただきます。
委員長	26 ページが、私たちが今回議論させていただいた主旨でございます。 今回、稲敷市の外部評価の見直しをするにあたり、3人の委員および事務局の皆さんと、7回にわたり非常に深い議論をさせていただきました。その時に、私たちが特に大事にしたのがこちらの5つの項目です。 1つ目が、木を見て森を見ずにならないように、ということで、こちらは、副委員長が非常に重要視されていた点です。どうしても、個々の事業にとらわれてしまうと、全体的な視野が失われてしまうということで、1

	つ1つの事業も大事ですが、ある種の集合体である施策に対する評価も加えていくことが必要であるというところを、私たちは強調しました。 2つ目は、ビルドとスクラップの両方を意識する、という点です。つまり事務事業を評価することによって休止・廃止するという選択肢も大事ですが、うまくいっている事業については拡充していくといったビルドの部分も大事であると考えました。 また、今回、事務局の皆さんにもご協力いただき、県内外の市町村の行政評価の仕組みについても勉強させていただきましたが、中には事務事業の評価の仕組みはあるけれども、それがビルドに繋がっておらず、評価を実施すること自体が目的化してしまっている例も散見されました。それではやはり意味がないということで、事務事業評価が確実に市の政策に反映されるような仕組みづくりを心掛けました。具体的には、今までは外部評価が事務事業評価の最終段階であったのですが、今回は外部評価を第2段階とすることをご提案しています。内部評価の後、外部評価を行いまして、その後庁議にかけていただくという仕組みになっています。最終的な決定を庁議で行っていただくことによって、休止・廃止あるいは拡充といった方向に繋げやすいという仕組みを考えました。 さらに、これを確実に反映していくためには、総合計画との連動が大切ですので、総合計画の計画サイクルに合わせた評価サイクルとしました。具体的には、総合計画策定の前年に施策評価と事務事業評価の外部評価を行うことによって、評価を踏まえた上で次の総合計画を策定していただくというサイクルにいたしました。 最後の点は、私が拘ったところでもあるのですが、私は行政学、公共政策の分野を研究しておりまして、様々な市町村の行政評価を見えています。そこで、本来行政の仕事の効率化や削減につながる行政評価が、評価自体が自己目的化されている事例が見受けられます。具体的にいいますと、評価そのものが膨大な作業になり、評価するだけで疲れてしまう。しかも、膨大な作業を行って綿密な評価を行ったものを誰も見ていない、というようなこともございます。これが評価疲れ、評価の自己目的化と言われるものです。よって、事務局の方や評価に関わる方が、評価疲れにならないようにはどうしたらよいか、ということも含めて検討させていただきました。2回はオンライン会議ではありましたが、6回にわたって、かなり本質的な議論ができたと考えております。他の市でも、いくつか外部評価や行政評価の委員をさせていただいておりますが、今回ほど本質的な議論ができたのは初めてです。今回は、各委員および事務局の皆さんが、かなり突っ込んだ議論を重ねながら、時間をかけて作り上げたものでございます。今回の報告書を踏まえまして、今後稲敷市が行政評価を推進するにあ
--	---

	たりまして、報告書でお示ししました様々な仕組みや考え方を効果的に活用していただければと思っております。
	《写真撮影》
市長	今日は事務事業評価についての見直しということでご提案いただき、ありがとうございました。昨年、会議の冒頭におきまして、私から皆様にお願ひしたのは、人口減少、職員数が減少する中、いかに事業を休止・廃止できるか、その仕組みづくりをして欲しい、ということをお願いいたしました。今回、内容を見させていただいて、それだけでなく、新しい外部評価の在り方、評価疲れなどに対して、大変前向きなご提案をいただいたと思っております。来年度以降、皆様からいただいた報告書を基に、さらに前向きな市をつくっていきたいと思います。今回はありがとうございました。
課長	では、副委員長からご講評、ご感想などお願いいたします。
副委員長	今回参加させていただいて、私の経験も踏まえて色々意見を申し上げました。今までは個別事業の評価だけでしたが、それでは施策全体の中で、個別事業がどういう役割を果たしているか、今後どういう展開が望まれるのかが見えてこないのので、広い観点からも評価する必要があるだろうと申し上げました。施策評価は、どちらかというに進捗状況の評価になるかと思ひます。事業は、従来通り評価を行いながら、もう少し広い観点での評価が必要だということを申し上げました。 それと併せて、スクラップ・アンド・ビルドということで、今まではスクラップ中心の行財政改革的な評価が主となっていましたが、今後はビルドの視点が必要ではないかと申し上げました。個別具体的な事業を提案するわけではないのですが、こういう点が不足しているのではないかとということ、外部評価の中で指摘していくことが必要ではないかと申し上げました。 もう一つは、評価の基準として、行政の目標をどれだけ達成しているかというアウトプット指標と併せて、市民がどれだけ行政に満足しているかというアウトカム指標の両方を見ていく必要があります。例えば、県内や全国で稲敷市の位置はどの程度か、といったデータを踏まえて順位を上げていくという考え方もあります。茨城県では世論調査のようなものを毎年やっていますが、そういうようなものを取り入れていく必要もあるかと思ひます。そういったところをおさえて、評価を進めていくことが重要かと思ひました。 最終的にはスクラップもビルドも予算が裏付けとなりますので、予算に反映させていくことで、確実に達成できるのではないかと思ひます。

	今後、市全体で取り組んでいただくことが肝要であると思いますので、よろしくお願いいたします。
課長	本日欠席の委員からは、巻末にご講評をいただいておりますので、私が代読させていただきます。 今年度の外部評価委員会では、外部評価の在り方そのものについて、突っ込んだ議論をしました。行政評価は時として「やらされている」感のなかで、消極的に行われていることがあります。今回の見直しでは、多くの関係者が関心を持ち、より積極的に行うことが価値を生み出すような仕組みづくりをしました。 新しい行政評価制度は、行政組織が限られた資源（人・モノ・カネ・情報など）を、より効率的かつ効果的に使うための道具となります。市長にとっては中長期的なビジョンを具現化することが、各担当課は戦略的な政策実施をすることが、そして一番重要なこととして、市民にとって行政活動がより「見えやすく」するために使用することが可能となります。 ただし、どんな道具でもそれを使う人の魂が入っていないければ、質の高い成果は達成できません。今後は、首長をはじめとする行政組織の皆様や、市民の方々がどのようにこの道具を使いこなしていくのかにかかっています。 以上でございます。
市長	この評価をどう使っていくかが肝心ですね。検討したということで終わらせることなく、今後にどう繋げていくかが大切だと思います。
副委員長	24 ページで、試験的に外部評価を実施しています。施策評価になっていますが、委員によって意見が違います。概ね順調、やや遅れなどの意見があります。コメントの欄には、単にスクラップばかりでなく、ビルドに向けた意見も述べさせていただくイメージです。 今後は、移住定住が稲敷市の一大テーマになってくるでしょう。県内で一番人口減少率が高いのが大子町ですが、2、3、4 位は稲敷市を含む周辺の地域です。その中でどうやって、メガコンペティション時代、大競争時代を生き抜くかが、1つのテーマですから、色々な手を尽くしていかななくてはならないと思います。 25 ページは、個別事業についての評価、意見があります。事業についても、ここに示すような形で意見を述べさせていただくイメージです。評価項目のところに、現状維持、改善などの評価を入れていますが、委員によって意見は違ってくると思います。そこは無理にまとめずに外部評価させていただいて、受け止める側でどう料理するかというふうに捉えていた

	できればと思います。市長がどう判断されるか、どのように庁議で決定されるか、ということになると思います。 現時点では、この行政評価票のサンプルは試しにやってみたものなので、具体的に評価に至っていないものもあります。実際はもう少し深い評価になってくると思います。
課長	外部評価は令和4年度実施の予定ですが、来年度は初年度なので、外部評価の委員の方に一度お集まりいただいて、少し検証してみるということになっています。4年に一度、市長の任期に合わせて外部評価を回していくサイクルになっています。
副委員長	何を重視した政策を展開していくかという、市長のマニフェストが基準になってくると思います。そこを、市長がどう料理していくかが大事になってくると思います。我々はあくまでも提案や意見を申し上げるだけで、最終決定は市長なので、よろしくお願い申し上げます。
事務局	来年が、総合計画の2年目なのですが、計画期間の半分ということで、2年目の終わりに、先ほどのアウトカムになる住民意向調査をやる予定でいます。今回お話を聞いて、指標の考え方などについてもご提案いただきました。他の市町と比較して、稲敷はここまで目指していく、という考え方など、大変勉強になりました。
課長	そろそろお時間となってまいりましたので、以上で報告会は終了とさせていただきます。

3. 報告（312 会議室へ移動）

課長	本日はありがとうございました。それでは、今後の予定等について事務局から説明いたします。
事務局	今後の予定をいくつかご説明させていただきます。本日と前回の委員会の議事録をまだ委員の皆様にご確認いただけていないので、後日送付いたします。内容をご確認の上、修正があればご指摘いただきたいと思います。報告書と併せて、議事録も公表予定でございますので、よろしくお願い致します。また、今回市長に提案しました報告書については、4月の庁議で報告をさせていただく予定でございます。来年度の外部評価委員会には、8月から9月頃に内部評価の結果報告と、再来年度の予定の確認を兼ねて1回程度開催予定でございます。日程については改めてご相談させていただきますのでよろしくお願い致します。
委員長	来年度は、まだ任期が切れていないのでしょうか。
事務局	（任期が）切れますので、新たな委嘱をさせていただきます。今度は要綱を見直しまして、3年間の任期の要項を作成いたします。ただ、以前に委員長が仰っていたように、ご異動等の可能性が無いわけではないと思いますので、新しい要項では、もし任期の途中で委員が変わられる場合は、

	残り任期内で委員の補填をすることをうたっております。3年間ぜひ外部評価委員をお願いしたいところではありますが、3年間固定というわけではないので、よろしくお願いします。
副委員長	総合計画審議会はいつ始まるのですか。
事務局	2年後です。次の外部評価委員会と同じ、令和4年度になります。時期的には秋から冬が始まるころに、第1回をやるのが通例ですので、外部評価委員会のご意見を、そのまま総合計画審議会の資料に活用していくことができると思います。 稲敷市は議員もメンバーに入っており、人数が多い方です。
副委員長	一人ひとりが意見を言える時間は少ないですね。
課長	他になれば、これをもちまして、第7回稲敷市外部評価委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。